

# パンジー通信

ホームページ <http://www.pansy-nara.net/>

 フェイスブック <https://m.facebook.com/pansynokainara/>

奈良LDの親の会「パンジー」はLD及びADHD、アスペルガー症候群、高機能自閉症、軽度知的障害など、発達障害児（者）の親・本人の会です。

パンジー通信五十六号  
目次

- ・全国LD親の会 近畿ブロック会議 R2.7.4  
..... 2～3
- ・パンジーの会 勉強会報告..... 4～5
- ・運営部 JDDnet 福井オンラインシンポジウム  
視聴報告..... 6～7
- ・アド部 行政等訪問活動報告..... 8～9
- ・小中高部 奈良県教育委員会訪問 ..... 10
- ・土曜会 クリスマス会..... 11～12
- ・パンジー各部活動報告  
運営部・小中高部・アド部（高卒相当以上）  
ピアカン、土曜会各部..... 13～14
- ・全国LD親の会公開フォーラムお知らせ  
..... 15～16



皆様 こんにちは。パンジー代表の入船です。

令和3年を迎えてもコロナの災禍は止めどもなく広がり、関東を中心に再び「緊急事態宣言」が出され、人の往来がストップしました。

そのような時に、パンジーの会は30周年を迎えました。人の往来が出来ないことで講演会も研修会も大きな企画は出来ませんでした。 「zoom」を活用した会議や大庭先生との原点に返った「交流会」は、次へのステップへの示唆を頂いた企画となりました。

本年は、全国親の会を中心に、「全国会員の子育て記録ブックレット」の発売や「個人会員制度」の開始募集など、新たなスタートが始まります。奈良のパンジーも「わが子の自立と差別なき社会の実現」に向け、もうワンステップ皆さんと歩いていきましょう。

## 近畿ブロック会議報告

開催日時 2020年7月4日(土) 13:00~17:00

出席者 当番会 ◆らっきょうの花(齊藤、河原)、おたふく会(奥脇、石本)、たつの子(平野、清水)、翼(吉田)、トムソーヤ(小林)、パンジー(中野)、  
 ◆sky(武政)、◆パンジー(小西)、◆たつの子(宮本)、◆明日葉(山口、三戸)、  
 ◆はあとりんく(小幡) ◆: zoomでの参加  
 (理事・評議員)井上、高畑、入船 計: 18名参加

欠席会 あおぞら

### 【議題】

#### I. 第30回NPO法人全国LD親の会評議員会報告(資料I-1)

- ①第13回総会
- ②2020年度事業計画案・予算案修正(資料I-2,3)
- ③第14回総会
- ④第15回総会
- ⑤入退会について
- ⑥2020年度役員
- ⑦2020年度会費請求について
- ⑧2020年度会員名簿更新について
- ⑨2020年度構成調査提出手続について

#### 2. 事業実施に関する審議

##### (1) LD等の発達障害に関する研究事業

- ①一般社団法人日本LD学会第29回大会(資料I-4)
- ②合理的配慮と基本的環境整備事例収集
- ③その他

##### (2) LD等の発達障害に関する理解啓発事業

- ①会報「かけはし」(資料I-5)
- ②第19回公開フォーラム(資料I-6)
- ③【決議事項】第20回公開フォーラム
- ④特別支援教育支援員養成事業
  - ・2020年度ボランティア支援員養成講座 in 滋賀 中止
  - ・【決議事項】2020年度特別支援教育支援員養成講座 in 大阪 中止
  - ・2021年度開催について:
- ⑤アジア太平洋ディスレクシアフォーラム2020 in 岡山
- ⑥全国HP
- ⑦ブログ
- ⑧理解啓発冊子販売事業(収益事業)
- ⑨今後の講演会・研修会について

##### (3) LD等の発達障害のある人及び家族等の支援事業

- ①空白県対応
- ②親の会設立支援
- ③2020年度 研修会
- ④2020年度 青年の交流会
- ⑤各会からの会報
- ⑥各ブロックからの報告(資料I-7)

#### (4)LD等の発達障害のある人に対する支援・制度の充実に向けた活動事業

- ①2021年度予算要望(資料I-8,9)
- ②文部科学省関連
- ③JDDnet関連
- ④日本障害者協議会
- ⑤全国特別支援教育推進連盟
- ⑥公益財団法人共用品推進機構「良かったこと調査」

#### II. 近畿ブロック確認事項

##### ①2020年度近畿ブロック研修会について

・開催の有無を討議、採決する。

以下、開催の場合の検討事項。

・日時：令和2年11月21日13:30～ 17:00

・テーマ：全国LD親の会オンライン研修会

##### ②2020年度近畿ブロック青年の集いについて

新型コロナ感染拡大防止のため、中止

##### ③近畿ブロック体制について

・近畿ブロック全国評議員・会計・会議当番会確認(資料II-1)

・2019年度会計報告・2020年度予算案(資料II-2)

・2020年度近畿ブロック名簿作成(資料II-3)

##### ④近畿ブロック会費について

#### III. その他

・各会の活動報告(資料III-1)

・次回近畿ブロック会議(未定)

JDDnet福井 令和2年度オンラインシンポジウムの案内(資料III-2)

#### <配布資料>

#### I. 第30回NPO法人全国LD親の会評議員会報告(資料I)

1,第30回NPO法人全国LD親の会評議員会議事録

2,2020年度事業計画修正案

3,2020年度予算修正案

4,第29回日本LD学会大会 親の会企画シンポジウム案

5,第91号かけはし案

6,第19回全国LD親の会公開フォーラム開催案

7,ブロック報告(1-4)

8,2021年度予算要望 文部科学省宛

9,2021年度予算要望 厚生労働省宛

#### II. 近畿ブロック確認事項(資料II)

1,近畿ブロック全国評議員・会計・会議当番会確認

2,2019年度会計報告・2020年度予算案

3,2020年度近畿ブロック名簿作成

#### III. その他(資料III)

1,各会の活動報告(1-10)

2,JDDnet福井 令和2年度オンラインシンポジウムのチラシ

## 勉強会報告

今年度はコロナ禍ということもあり、会員限定で勉強会を開催しました。発達障害のある子に、親としてどう関わっていくか、どう向き合っていくのかということを中心に、お二人の先生からお話をいただきました。

①10月31日(土)13時30分～17時あすなろ苑会議室にて、精神科認定看護師小瀬古伸幸氏にコロナ禍であるにもかかわらずお越しいただき勉強会を開催することができました。当会より4名が参加しました。

小瀬古氏は今年初めから県庁から協力依頼があり、引きこもりの方々の中でも医療の必要な方を適切につないでいく支援などをされています。最近、引きこもっていくタイミングは高校を卒業した頃からが多く、中高生の間はなんとかうまくやっていた方が多くなっています。就職はしたもののうまくいかずまた、大学に進学しても今までとの違いに戸惑い、といった理由が多いそうです。

発達障害のある方はこだわりの行動がありますが、引きこもりの方はこれとは違った二次障害「脅迫症状」が現れることが多いそうで、少しずつその症状は増えていき、日常生活や社会生活がままならず困難になるほどになっていきます。

この勉強会で、親子関係においてどんなことが大切か、また、親として子どもとどう向き合うべきか、そして、もし学校や職場に行きたくない、また行かない状態になったときどうすべきかといったことを小瀬古先生から学ぶことができました。

### <参加者感想>

・子どもが引きこもりになった家族の親子関係を具体的に教えて頂き、とても参考になりました。父、母それぞれの役割の大切さを知り、思春期の息子達との接し方を見直して、子供達が安心して過ごせる場所にしていきたいと思いました。

・子どもの気持ちをよく考えずに親の考えだけで言葉をかけてしまっていたなと思い反省しました。解決に繋げるには子供の気持ちに寄り添う事、また第三者の存在が不可欠だと感じました。

・今回で2回目の参加です。中学生の子が、月曜日に休みがちなのでどうしたら（私がどう振る舞えば）いいのか考えさせられました。

家族として、家の中の空気が居心地良くリラックス出来る状態なのか考えて。本人を大人扱いして信じてあげたいと思います。



②2月5日(土)13時半から、あすなら苑大会議室にて、土曜会でお世話になっています特別支援教育士スーパーバイザー大庭譲治先生にお越しいただき「発達障害児・者の生活力について」と題し勉強会を行いました。先生の用意していただいたパワーポイントと資料をもとに、お話しいただいた後、参加者一人一人が家庭の状況や我が子にに関しての質問をしていき先生からアドバイスをいただきました。

就労・自立には、まずは基本的な生活力を身につけること。そして、その生活力を身につけるには心と体の健康が一番の基本であり、そこを私たちが親が担っていくことがなにより大切であること。また、本人の自己理解が大切であること、親離れ子離れがをしていくことが必要であることなど、親として何が大切かをお話しいただきました。

資料のチェック表は認知行動療法に基づくもので、子どもだけでなく親自身にもぜひしていただきたいとのことでした。今だけでなくチェック表を一年後、それ以降も定期的にしていき、認知にどのような歪みがあるか理解していくほうがよいそうです。

#### <参加者感想>

・子どもの不安な気持ちやしんどい気持ちを本人から聞き、その聞いた話しに答えを出すことなく、ただ寄り添う。そして、家庭が子どもの居心地のよい場所となる。というところに、とても感銘を受けました。今後実践していこうと思っています。

・自己理解、自分自身を知ることの大切さ、自尊感情を保つことの必要性。現在、息子自身が自分の苦手なこと(生まれ持ってコミュニケーションを取ることが苦手)なことを納得できずにいます。

また、不安だらけで自信を持てずにいます。

親として出来ることは、大庭先生もおっしゃっていた、寄り添って、話を聞いてあげることだけですが、安心して居心地の良いと思える家庭を作っていきたいと思います。

・最近遅めの反抗期が今頃になってやってきて、母子共にお互いピリピリしていました。今思えば子供にとって家が居心地の悪い場所になっていた様に思います。子どもの思いに寄り添わなければと思っていながらも、それが出来ない事を勉強会で再認識する事ができました。

勉強会後は子どもとの会話が少し増えた様な気がします。

・親という責任感から答えを出そうとするが、その必要はない、という言葉に将来が不安で必死になっていたのは私の方で、子供が本当に求めていることが出来ていなかったと気付きました。これからは、寄り添い安心できる関係を築いていきたいと思っています。



## JDDnet 福井オンラインシンポジウム 発達障害者の「変わるところ」「変わらないところ」視聴報告



DDnet 福井 令和2年度 オンラインシンポジウムを Zoom にて参加視聴したので、講演の概要を紹介します(後半の討議略)

### 発達障がい者の「変わるところ」「変わらないところ」2020.7.26

目的 発達障がい者の支援の大きな目的に、彼らの能力を上げ、社会人として働き、収入を得て暮らせるようにすることがある。しかしながら、支援を続けていて気が付くのは、個人の伸びスキルとして伸びるところと、変わらずに苦手なまま存続するところがあるということである。 学業成績などの個人としてできることは伸ばせるし、学校での問題行動は減少していくので、本人、それ以上に保護者は安心するが、場の雰囲気を読んでの言動、臨機応変な対応などは、幼少期からの苦手さがそのまま大人になっても継続する。そのことを理解しないまま、高校や大学を卒業して就職する時にその苦手さが一気に露見して本人も保護者も挫折を経験する。

変わらない苦手さを早くから理解するように促し、そこは周囲から理解や支援を求めることで解決すればよいと考えられるようになることで、

自分にできること/できないことを納得し、不適切な学校選択、仕事選択をしないように支援することが、結局のところ本人のためになるのではないだろうか。

このような観点にたち、本シンポジウムでは、発達障害を持つ大学生が就労の際に直面する困難さを通じて、大人になっても存続する変わらない苦手さについて考える講演をしていただく。その後、いつ頃から、どのように、本人や保護者に理解を進めていくべきかについて、関係する方々の間のディスカッションを深めていきたい。

### 講演「発達障害者大学生の就労支援から見た自己理解の大切さ」

福井工業大学 荒木史代

(自己理解とは、これまでの経験を振り返り、客観的に自分を見つめ直すことをいう)

- ・学校に適応できても、社会に適応できるとは限らない、大学での適応とは単位取得ができ、そのための一定の社会適応ができることをさす。

本人の自己理解(本人の思い)と保護者の理解(本人に対する思い)、また、他者(支援者：他者の本人に対する理解)は、異なる部分が多い。

授業についていけず単位取得が困難、自活力が低い、コミュニケーション力等が低く学生生活で孤立、就労後職場の人とうまくかかわれない、適格な質問等ができずミスをする等して、転職を繰り返す。 社会適応につながる他者の理解と一致する自己理解を、いかに育てていくかが大事、大学教育、大学の支援だけでは困難です。

大学では、支援プログラムとして、入学までに大学への移行支援を行い、大学入学後修学支援として、できることとできないことの振り返りの機会を8回与え、対策として、講義録音、写真撮影、試験時間の延長、座席の配慮、聴覚過敏対策としてイヤーマフ、パワーポイント資料の配布等をしている。就労支援としては、社外就労支援機関と連携し、就労体験等の就労支援を活用、就労後も定着支援(3.5年)のフォロー支援を活用している。

振り返り相談(自己理解)の申請は、本人申請が基本であり、保護者や障害を告知していない人は利用できない(国の就労支援利用は障害告知が基本)。

障害を告知しない人への支援は、大学生としての配慮の範疇で支援を実施。

・就労成功事例として、大学は専門的学問を学ぶ場であり、大学で専門スキルを獲得した学生で、就労先で、セルフアドボカシー(自分に必要なサポートを自分のまわりの人に説明して、理解してもらう活動のこと)ができた人。プログラミングが得意なこの学生は、会社ではそれだけやってくれたらいいと言われている。本人はこつこつやる特性で、自分の得意が特定の職種と一致した。

・就労がうまくいかない事例 大学進学時に就労より進学とし、県外は生活が大変のため県内にした等、消去法で大学を選択した方。

大学は、入学を認めた以上、できる範囲で世話をするとの方針で対応している。まずは、奨学金をどの程度借りているか貸与方を確認し、卒業後の返済可能性をチェックする。高等教育無償化の家計基準と成績を確認、2020年給付型では、成績上位50%以下の警告を2年続けると、奨学金は打ち切られる。4年生大学の50%が依存する昨今、就労できずにA型作業所76,887円/月、B型作業所16,118円/月の収入では、返済は無理です。次に、社会で働くためのライフスキルを獲得するために在学中に社外福祉施設の協力を得て、就労移行支援を活用し、就労経験をさせ適応するよう努力させる。就労には、特に、三者(本人、保護者、支援者)の理解の部分を一致させ広げることが大事、例えば、障害者公務員の募集をしていたら、親がまず受けてみなさいではだめです。本人の特性を見て、本人も周りも、適性を判断しないと駄目です。特に父親と母親との意見の違いが多い。

発達障害のある大学生として、自己決定・自己表明(セルフアドボカシー)を支える環境が改善されることが大事です。大学では、福祉施設との連携のもと、スタッフ皆の想いを一致させ支援しています。コミュニケーションスキルは、大学では学べない、獲得も難しい、大学進学を安易に選択しないことが大事です。人とかわるうえでの普遍的なスキルは変えていくことはできない。

#### まとめ

本人の自己理解、親、支援者の三者の理解が一致していること、入学時に三者の自己理解が一致していること。大学適用とか就労について、夫婦が一致していること。本人や周りが当事者の通ってきた道(わだちのような)過去を振り返り、この先を考えていくことが大事です。

参考:東京大学 PHED 障害学生支援スタンダード集 <https://phed.jp/about/standard>

アド部

## 行政等訪問活動報告

- 1.日 時 令和2年9月9日(水)
- 2.参加者 パンジーアド部役員2名
- 3.訪問概要

### (1) 奈良県労働局職業安定部職業対策課

- ・奈良第三合同庁舎2階会議室 ・相手先:A 課長補佐、B 障害者雇用担当官
- ・入手資料:奈良県の民間企業における障害者雇用状況

労働局から配布資料の説明があり、県の障害者雇用数は、前年比167人増の2,616.5人、実雇用率2.79%全国一位、法定雇用率達成企業割合59.8%全国11位、新規求職申込件数は、2,125件、就職件数1,100件。精神障害者とその他の求職は、1041件で就職件数は、510件。精神障害者(手帳取得者)の就職件数は、平成22年の81件から、令和元年では426件(前年比1.9%増)と増加し、全体に占める割合も17%から38.7%へと増加している。

平成30年4月に民間の雇用率が2.2%に引き上げられ、対象企業規模が50.0人から45.5人以上へと変わり、県では前年より14社増加し659社となった(全国では1,303社増、なお、発達障害者の場合、手帳(療育又は精神)保持者で、週20hr以上30時間未満の方は、平成30年から0.5人から1.0人とカウントされている)。今年度は、コロナのおり、就職状況は厳しい状況にあり、4月から7月迄で、求職件数は、昨年より増加しているとのこと。

平成29年から「精神・発達障害者しごとサポーター養成講座」として、一般の従業員を主対象に精神障害、発達障害に関して正しく理解いただき、職場における応援者(障害者しごとサポーター)となっていくための講座(講義・質疑応答で90~120分、企業へ出向くことも含む)を開始したところ、昨年実績は、集会8回165人、出前講座9日396人参加となったとのこと。今年は、コロナのため密を避け、実施できていないとのこと。他の方法での支援や、コロナ収束後、継続して実施され、理解者がさらに増えることを期待したい。

平成18年度から障害者継続支援を実施しており、福祉施設等の利用者をはじめ、就職を希望する障害者一人ひとりに対して、ハローワーク職員(主査)と福祉施設等の職員、その他の就労支援施設職員とチームを結成し、就職から職場定着まで一貫した支援を実施している。(可能な限り、障害者・生活支援センターがチームに参加し、生活面の支援を継続的に実施しているとのこと。)

当方からは、就労コーディネーターなどの就労時、就労後の継続したフォロー、企業側の障害者への配慮事項の継続化、職場の支援者の確保等をお願いした。コロナのおり、非正規雇用者が被害を被っている、精神障害者の中には、長い時間働けない人も多い、週20時間以下の人でも、いくらかは雇用カウントされ、関係助成金が支給される道筋の開拓をお願いした。

労働局からは、今就労できている方は、コロナが落ち着く迄は、今の職場が辛抱できるなら、継続し、転職は慎重にした方が良くとアドバイスを受けた。

**(2)奈良県健康福祉部障害福祉課**

・奈良県庁本館 3階福祉課会議室 ・相手先: C 課長補佐、雇用促進係 D 係長  
 ・入手資料 奈良県の障害者就労支援対策概要、福祉医療部就労への支援予算  
 県から就労支援に関して配布資料により説明を受け、予算は約 59.5 百万円  
 主要なものは、

①なら障害者「はたらく」推進事業 約 35.9 百万円: 障害者・生活支援センターを 5 圏域に設置、「障害者はたらく応援団なら」の運営、障害者ニーズに応じた職場実習の受入拡大を推進、就労連携コーディネータ 3 名の企業訪問により職場実習機会の拡大推進等。今年、コロナ関連で企業は苦戦している、県も従来のように、企業と意見交換が十分にできていないが、9 月初旬なんとか障害者推進トップフォーラムが開催できたとのこと。

②精神障害者・発達障害者雇用企業サポート事業 約 9.5 百万円

③障害者職場実習促進事業 約 79 万円: 職場実習機会を拡大、ジョブサポーターを要請・登録し、障害者の職場実習先に派遣するもの等 職場実習訓練は、一カ月程度を計画、希望者は問い合わせ要、精神障害者の雇用促進策として、ゆいの会へ委託して実施(精神保健福祉士 2 名)、昨年の相談支援実績は、200 件とのこと。今年度新たに企業応援集中セミナーの開催を計画(障害のある人の雇用に関する専門的な知識や技能を習得した人材を企業内に育成するため、指導者、人事関係者を対象に集中セミナーを開催)

④障害者「いい仕事づくり」推進事業(福祉的就労)約 3.3 百万円: 事業所で働く人の工賃向上支援(授産商品の販売促進、公的機関による優先調達の推進など)

⑤農業連携推進事業 7.8 百万円: 農業分野での障害者就労支援のための職場体験実習(一カ月程度を計画、募集は、障害者就業・生活支援センター等)

農業体験から就労支援に結び付くシステムを構築していただけるようお願いするとともに、コロナ下、手厚い障害者支援をお願いした。(県下には、農業法人が約 40 社程度あるとのこと)

**(3)奈良県産業・雇用振興部 雇用政策課**

・奈良県庁本館 6階雇用政策課会議室 ・相手先: E 能力開発係長

障害者が一般就労を希望する場合の窓口である。「障害者の態様に応じた個別の多様な委託訓練(一カ月)は、継続中、希望する方は、もよりのハローワークに相談して、面談のなかで、どんなものを受けるか検討する。ハローワークは、是非を審査し県へ紹介、県のコーディネータが訓練先を決定し、一カ月程度の実践能力習得訓練を受けることができる。随時受けつけており、直接担当(岡本)に問い合わせいただいても良いとのこと。(障害者就業・生活支援センター、ハローワーク、福祉施設の連携)

**(4)奈良県中小企業同友会**

・奈良県経済会館 407 号室 ・相手先: F 事務局長代行

今年、コロナの影響で各企業大変な状況です、なんとか持ちこたえているが、今後、倒産企業が出てくる可能性が高い。国や県の金融支援等は大変ありがたい。中小企業がどのようにしんどいのかを良く把握し、行政等に報告していきたい。今は、返済期限のない融資を有効活用できないか等を検討中とのことで、厳しい現実を感じました。

小中高部

## 奈良県教育委員会訪問



10月23日（金）に小中高部6名にて奈良県教育委員会 特別支援教育推進室指導係の先生方に質問をし、ご回答いただきました。

本年度より県の教育委員会の組織の改編で、いままで特別支援教育課で行っていたことが、今後指導係と支援係に分かれ、指導係は主に特別支援学校、支援学級の運営にかかわる事象について、支援係は教育研究所内に置かれ教育相談を行うことになったようです。

（質問）中学校進学において、支援級で取り出し授業を希望すると、5教科すべて取り出しになり、定期テストも受けることができなくなる。また、内申点もつかないと言われ、高校進学への不利益になる。学校だけでなく市町村の教育委員会にも相談したが、配慮の理解が得られず、とても苦しい。困っている。

（回答）支援が必要とされている子どもが増えており、学級の中で配慮を受け支援級から高等学校に進学するケースも増えている。今後学校に問い合わせます。

以下の質問に対する回答はメールにて会員へ配信しております。

- ・高等学校での通級について。全国的に高等学校でも通級教室を行っているところが増えていっている。奈良県としてはどうでしょうか？
- ・市区町村で支援の内容が異なる。地域差をなくしてほしい。
- ・高等養護学校での就労実績を広く高校生にも活用できないか？
- ・不登校について、高校で不登校となると退学になるのか。



### <参加者感想>

今回、県教訪問に際して、相談内容としてあった、中学での支援級の在り方をメインテーマに、事前に小中学部のラインで皆さんの学校の事例を確認しました。

中学での対応は取り出し授業を行ってくれる学校が増えつつあること、臨機応変に対応してくれて、高校進学を後押ししてくれる等、支援級在籍でも必要な支援を受けながら色々な進路を検討できるようになってきました。

しかしながら地域差がまだまだ根強く残っていたり、小学校との差を感じることもあったりしましたが、パンジーの会員だからできるネットワークやアドバイスが有効であったのではないかと思います。

また、皆さんが学校にどんどん働きかけていることがわかり、パンジーの会で学んだ事や先輩方が教えてくださったことが、今の学校教育に活かされており、子ども達の学びを充実させているのだと実感しました。

土曜会



12月12日(土)に県福祉センターにて、土曜会児童部(小学生)と青年部(中学生)それぞれのクリスマス会を開催しました。

今年は児童部の会員が少なく、児童部のクリスマス会に青年部もお手伝いに来てくれました。体育館でバスケットボールやキックベースを行い、青年部も久しぶりの運動でしたが、児童部と共に全力でゲームを楽しんでいました。そのあとは、恒例のサンタクロースのプレゼントタイム。サンタは毎年、青年部の会長がします。少し恥ずかしそうにしながら、児童部のために頑張って役目を果たしてくれました。児童部の子からお返しに、サンタや青年部のお兄さんお姉さんたちへ手作りクッキーを渡していました。児童部の人数が減り寂しい状況ですが、青年部のおかげで和やかで楽しいクリスマス会になりました。

児童部のクリスマス会終了後、会議室に移動して次は青年部のクリスマス会です。

トランプや人狼ゲームやUNO、そしてビンゴでプレゼント交換を行い、自分たちで考えたクリスマス会でとても盛り上がりました。この日、ひとりで電車に乗ってきた子が、駅からの道で迷い連絡が取れず、皆で心配して待っていましたが、無事に到着。遅れてクリスマス会に参加することができました。不安な気持ちを抑えて、自力でたどり着いた姿に成長を感じましたが、このような経験も親子で振り返り学ぶことで、今後活かすことができると思います。

今年はコロナの影響で、夏のデイキャンプなど多くの行事が中止になりましたが、最後に皆で楽しく過ごすことができました。



【感想】

(小6男子)

久しぶりの参加だったけど楽しかった。サンタさんプレゼントありがとう。

(小6男子・母)

準備や青年部の皆さんお手伝い本当にありがとうございました。今年は公私ともに落ち着かない年で会の活動にほとんど参加出来ずで、久々の参加だった為大丈夫かな?と思いましたが、気後れすることなく楽しく皆さんと関わって良かったです。

(小6女子・母)

なんでも中止の多い中、子供たちは楽しませて頂いて有難かったです。

(中1男子)

久しぶりにキックベースをして疲れました。クリスマス会でビンゴやUNOやトランプで遊んで楽しかったです。またこういう楽しいことをやりたいです。

(中2男子)

バスケットキックベースを久しぶりに出来て嬉しかった。人狼と絵文字カード、UNOも楽しかった。

(高3女子)

反省はいっぱいあるけど、途中から出来てよかったです。皆楽しそうでよかった。



(中3女子)

久しぶりにイベントが出来てとても嬉しかったです。

(高2男子)

久しぶりの土曜会で体を動かしてよかった。人狼ゲームはやった事なかったけど、ルールが単純で面白かった。

(高2男子)

久しぶりにみんなで集まれて、ゲームやトランプなど色々なことをして遊んでとても楽しかった。



## パンジー各部活動報告 & 今後の予定



### 《 運 営 部 》

#### 活 動 報 告

- 5月24日 パンジー総会（中止の為書面決議）
- 6月20日 全国LD親の会第13回総会（大阪ドーンセンター／オンライン開催）
- 7月 4日 近畿ブロック会議（大阪ドーンセンター／オンライン開催）
- 7月 5日 パンジー役員会・全体交流会（あすなら苑）
- 7月16日 奈良県発達障害者支援地域協議会（奈良県橿原総合庁舎）
- 8月 3日 NDF代表者会議（はぐくみセンター）
- 9月13日 パンジー役員会（オンライン開催）
- 10月31日 パンジー勉強会（あすなら苑）
- 11月21日 全国LD親の会研修会（大阪ドーンセンター／オンライン開催）
- 12月 5日 パンジー役員会・勉強会（あすなら苑）

#### 今 後 の 予 定

- 1月27日 パンジー通信印刷発行（はぐくみセンター）
- 3月 7日 近畿ブロック会議（大阪ドーンセンター）
- 3月14日 パンジー役員会（あすなら苑）

### 《 小 中 高 学 部 》

#### 活 動 報 告

- 6月10日 サロン川西
- 7月8日 サロン川西
- 8月8日 レクリエーション（中止）
- 9月9日 サロン川西
- 10月14日 サロン川西
- 10月23日 奈良県教育委員会 訪問
- 11月11日 サロン川西

#### 今 後 の 予 定

- 1月13日 サロン川西
- 2月10日 サロン川西
- 3月10日 サロン川西
- 3月 レクリエーション



### 《 ピ ア カ ン 》

#### 活 動 報 告

- 11月12日 ペアレントメンター活動（香芝市）
- 12月11日 ペアレントメンター活動（天理市）

今回は、奈良県発達障害支援センター でいあ～さんからの依頼で、メンターとして経験談をお話して頂きました。皆さん、熱心にお話を聞いてくださいました。

おしゃべりサロンは、コロナ禍のため開催を見合わせています。一日も早くコロナが終息し、ほっこりとした時間を皆様と共有できる日が戻ることを祈っております。

### 《 ア ド 部 》

#### 活 動 報 告

- 9月 行政等訪問
- 12月 講演会・交流会加

#### 今 後 の 予 定

コロナの状況を見て計画を策定

# 土曜会各部

土曜会は、特別支援教育士SVの大庭譲治先生が共に活動するソーシャルスキルトレーニング（SST）学習の場です。土曜会活動は、小学生の児童部、中高校生の青年部、18歳以上の成人部の3つの部に分かれて活動しています。

## 児童部

### 活動報告

- 6月14日 土曜会活動/福祉センター
- 7月11日 土曜会活動/福祉センター
- 9月12日 土曜会活動/福祉パーク
- 10月10日 土曜会活動/福祉センター（台風の為中止）
- 11月14日 土曜会活動/福祉センター
- 12月12日 クリスマス会/福祉センター
- 1月 9日 土曜会活動/福祉センター

### 今後の予定

- 2月13日 土曜会活動/福祉センター
- 3月13日 土曜会活動/福祉センター
- 4月10日 フリーマーケット/福祉センター

## 青年部

### 活動報告

- 6月14日 土曜会活動/福祉センター
- 7月11日 土曜会活動/福祉センター
- 9月12日 土曜会活動/福祉パーク
- 10月10日 土曜会活動/福祉センター（台風の為中止）
- 11月14日 土曜会活動/福祉センター
- 12月12日 クリスマス会/福祉センター
- 1月 9日 土曜会活動/福祉センター

### 今後の予定

- 2月13日 土曜会活動/福祉センター
- 3月13日 土曜会活動/福祉センター
- 4月10日 土曜会活動/福祉センター



## 成人部

### 活動報告

11月21日（土）大和西大寺 ビストロ酒場ASUROKU11名参加しました。  
 2月以来の久しぶりの開催です。コロナ禍の間「GOto EAT」の企画により、  
 2800円でローストビーフ食べ飲み放題で、みんな大満足！  
 大庭先生と大和中央高校のS先生も参加して頂き  
 またお試し会員のMさん親子も飛び入り参加で、  
 盛り上がりました。

### 今後の予定

2月の定例会はお休みです。5月の定例会を計画していますが、難しければ7月か8月に企画します。幹事は先輩のK君です。

**パンポラを募集しています!!**



## 共生社会における多様なコミュニケーション ～発達障害児者が社会とつながるために～

共生社会の形成に向けた取り組みが進められている一方で、効率性が重視され、競争が激しさを増している社会の中で、孤立感を深めている人も増えています。自分の思いや考えを伝えたくてもうまく伝えられない、あるいは、周囲から真剣に向き合ってもらえない、そんな時、人は絶望し、「自分は誰からも理解されない」「社会から必要とされていない」と感じ、社会とのコミュニケーションを放棄しかちです。特に、発達障がいのある人は、その特性から今の社会の情報の伝え方やコミュニケーションのあり方では自分の思いが伝えられず、周囲とコミュニケーションギャップが生まれ、孤立感を深めてしまいます。人はひとりひとり異なり、その在り方も多様です。それぞれの方法で、社会とつながり、人々の多様な在り方を相互に認め合うためのコミュニケーションとは何か、改めて考えてみたいと思います。

日時：2021年2月21日（日）9：40～16：00（開場9：10）

会場：北九州市立商工貿易会館 2階 多目的ホール  
 （北九州市小倉北区古船場町1番35号）

参加費：無料

定員：60名（座席の間隔を空けて、定員を設定しています）  
 に達し次第、締め切ります）

9:10 9:40～ 9:45	開場 開演挨拶
9:45～11:15 基調講演	<b>発達障がいのある人が社会とつながって生きるために</b> 西村 浩二氏（広島県発達障害者支援センター センター長）
11:15～12:00 遠隔操作ロボットの オンライン講演	<b>サイボーグ時代の人生戦略</b> ～社会参加のための新たなコミュニケーションツール～ 吉藤 健太郎氏（株式会社オリィ研究所代表取締役）
13:00～14:00 講演	<b>「描くということ」</b> Aju氏（アーティスト）
14:15～16:00 パネル ディスカッション	<b>「社会とつながる方法」</b> 報告1 永浜 明子氏（立命館大学スポーツ健康科学部 准教授） 報告2 永井 弘明氏（全国LD親の会理事・福井たんぽぽの会） 報告3 大曲 千代子氏（北九州LD等発達障害親の会「すばる」）
16:00	終演挨拶・閉会

主催：NPO 法人 全国LD親の会

共催：北九州LD等発達障害親の会「すばる」・福岡発達障がい者親の会「たけのこ」

後援：文部科学省、厚生労働省、NHK 厚生文化事業団九州支局、福岡市、北九州市、

## 申込方法 [一般参加の方]

パソコンから : <https://fs223.fomas.jp/w928/form2/>

携帯・スマホから : 右のQRコード

申込締切 : 2021年2月14日

(定員に達した場合は、全国LD親の会HPでお知らせします)

※ 申し込まれた方には受付完了の連絡をお送りさせていただきます。

※ 天候などにより開催を中止する場合は、弊社HPにてお知らせします。

<http://www.jpald.net/>

**【全国LD親の会会員の方は、所属の会あてにお申し込みください】**



会場のご案内 : 北九州商工貿易会館 <https://www.syokou-boueki.jp/access/>

<交通> モノレール「旦過」駅から徒歩1分 JR「小倉」駅から徒歩10分

### 会場についての注意事項

※ 多目的ホール内では、飲食が可能です。ただし、ゴミ等は各自お持ち帰りください。

※ 昼食の飲食店は、会場近くに多数あります。

### ご来場にあたってのご協力をお願い (新型コロナウイルス等感染予防・拡散防止策について)

※ 感染防止のために講演中もマスクの着用をお願いいたします。

(マスクを着用していない方はご入場いただけません)

※ 咳エチケットをお守りいただきますようご協力お願いします。

※ 検温で37.5度以上の発熱がある方はご入場をご遠慮いただきます。

※ 入場時の手指の消毒や場内での手洗い励行などにご協力をお願いいたします。

※ 会場に到着する以前に、既に発熱・咳・全身痛等の自覚症状がある場合、体調がすぐれない場合は、無理をなさらずご来場をお控えください。

### NPO法人全国LD親の会は・・・

LD(学習障害)など発達障害のある子どもを持つ保護者の会の全国組織です。1990年2月に活動を始め、33都道府県の40団体、約2,400名が参加しています。LDなどの発達障害のある人が、個性的で自立した豊かな社会生活をおくることをめざしています。(LDだけでなく、ADHD・自閉症スペクトラム症など様々な発達障害の仲間と一緒に活動しています。)

NPO法人全国LD親の会・事務局 〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-5ハロール代々木415  
TEL/FAX03-6276-8985 E-MAIL: [jimukyoku@jpald.net](mailto:jimukyoku@jpald.net) URL: <http://www.jpald.net/>